



## 3. 従来の手順とその特徴

手順	
室内温度になった採血管を準備する ホルダーに採血針を装着する 駆血帯をする 採血針を血管に穿刺する 採血管をホルダーにまっすぐ完全に押し込む 採血の血流が停止したら、駆血帯を外し、 その後、採血管をホルダーから外す ホルダーごと採血針を抜針する	<メリット> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的短時間で採血が可能 患者さんの苦痛・待ち時間が少ない</li> <li>・ 溶血しにくい</li> <li>・ 連続採血・多量採血が容易</li> <li>・ 採血針の血管内穿刺確認が容易</li> <li>・ 針刺しのリスクが低い</li> </ul> <リスク> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 採血管の内容物が血管に逆流し、感染を引き起こすおそれがある</li> </ul>

## 4. 可能な限りリスクの低減を図りかつ実施可能な手順とその特徴

通知の手順が有するリスクを少なくし、かつ真空採血管の内容物が逆流することを防ぐという視点から、検討を重ねた上で下記の手順を実施している施設もあるようです。

各施設においては、まず現在使用しているものが滅菌されているかどうかを確認するとともに、採血手順が有するメリットとそれに伴うリスクを正しく認識した上で、どの手順を選択するか十分検討することが望まれます。

また実施にあたっては、選択した手順（特に、駆血帯を外す時期）を該当職員に周知徹底することが必要です。さらに通知と異なる手順を選択する場合は、通知・報道と異なる手順での採血に不安を感じる患者さんもいることに留意し、採血手順を選択した根拠等の説明をすることも重要です。

手順	
室内温度になった採血管を準備する ホルダーに採血針を装着する 駆血帯をする 採血針を血管に穿刺する 採血管をホルダーにまっすぐ完全に押し込む 採血の血流が停止したら、直ちに採血管を ホルダーから外し、その後、駆血帯を外す ホルダーごと採血針を抜針する  * 現在使用している真空採血管が滅菌されているかメーカーに確認する。 * 患者の腕を下向きにし、採血中常に採血管が穿刺部位より下にあることを確認する。 * ホルダーは毎回清潔なものを使用する。(血液で汚染されたら必ず清潔なものと交換する)	<メリット> 従来の方と同様: <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的短時間で採血が可能 患者さんの苦痛・待ち時間が少ない</li> <li>・ 溶血しにくい</li> <li>・ 連続採血・多量採血が容易</li> <li>・ 採血針の血管内穿刺確認が容易</li> <li>・ 針刺しのリスクが低い</li> </ul> <リスク> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホルダーに付着した血液や採血針に残る微量(50 マイクロリットル程度)の血液が逆流し、感染を引き起こすおそれがある</li> </ul>

日本臨床衛生検査技師会公式ホームページ (NCCLS がト`ライ`ン = 静脈穿刺による標準的採血法 = 等掲載):  
<http://www.jamt.or.jp/>

以上